

令和2年度第1回岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

1 開催日時：令和2年9月4日(金) 10:45～12:30

2 場所：リーセントカルチャーホテル 4階 ボローニャ

3 出席者：

○委員(五十音順、敬称略)

赤井藤子、阿部宏史、岡本輝代志、沖陽子、河原長美、澁谷俊彦、高橋正徳、永富真理、藤木茂彦/計9名(欠席1名)

○事務局(県)

環境文化部次長、環境文化部参与(環境管理課長事務取扱)、環境企画課長、新エネルギー・温暖対策室長、循環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員

議 題	<p>1 部会長の選出及び副部会長の指名について 2 新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の進捗状況について 3 次期岡山県環境基本計画の骨子案について</p>
会議資料	別添資料のとおり
<p>議事概要</p> <p>事務局説明</p> <p>—委員意見— 委員</p> <p>環境企画課長</p>	<p>【議題1】 互選により、部会長に河原長美委員が選出された。 河原長美部会長より、副部会長に岡本輝代志委員が指名された。</p> <p>【議題2】、【議題3】 (環境企画課長が資料に基づき説明)</p> <p>今後、新型コロナウイルスの影響を受け、数値目標を立てても、参考にならない数字になってしまうことも想定されるが、次期計画の指標について、こうした場合の扱いを検討しているか。 また、県は、市町村を含めた県内で連携し、環境の基本的な目標を達成していく役割が大きいと思うが、市町村との連絡調整や市町村の環境基本計画との連携調整をどのように行っているか。</p> <p>新型コロナについては、環境基本計画においても、取組や数値的な目標に様々影響してくると思っている。 例えば、エネルギー消費量については、非常に左右されると思う。 次期計画において、どういった取組や数値目標を掲げるかについては、骨子案に肉付けをしていく段階で検討していくことになるが、特に数値目標は、最後まで、状況を良く見極める必要があると考えている。 ソフト的な取組については、環境学習など、そもそも実施が難しくなって</p>

おり、取組が進んでいないという話も聞いている。

この点、手法の工夫を検討していく必要があると思っている。

まずは、取組とともに、どういった数値目標を掲げるかということを含め、現状の数値と目標の数値をどう見立てていくかについては、最後まで悩みながらになると思う。一定のタイミングでは決める必要があるが、計画策定後においても、取組期間の中で随時見直していくことも必要になるのではないかと考えている。

市町村との連携について、必ずしも全市町村が環境基本計画を策定しているわけではないが、取組については、市町村・地域単位で進めていただいているところである。

先日、3 県民局で行った県民の意見を聴く会では、地域で活躍されている方を市町村で選定してもらっており、また、市町村担当者にも会議に出席してもらっている。

今後とも、市町村と一層情報を共有しながら、地域の取組が進むよう、体制を強化していく必要があると思っている。

委員

今の話は、大きな問題だと思っている。

例えば、県は、情報を聞くだけでなく、情報を集め、地域の連携を促進するようなこともできると思うので、検討してほしい。

次期計画を策定する上で、議論していけば良いと思う。

委員

第 2 章、『環境を取り巻く情勢と課題』を入れることは非常に良いと感じている。そのうち、『県内の現状と課題』において、各市町村と県との繋がりが入ってくると、かなり前になるのではないかと。章立てとしては、『世界の情勢と課題』、『国内の現状と課題』、『県内の現状と課題』となるが、最終的には県内も重要になってくるため、その流れを上手く作っていくことが必要だと思う。

第 4 章、『具体的な取組』は、今までの視点を踏襲していることは分かるが、横断的な視点が大事である一方、基本目標も互いに相関関係があるため、このあたりを見える形とし、また、概念図も相関関係が分かるように示すと分かりやすくなる。

環境に関する県民等意識調査について、『食品ロスの削減』、『海ごみ対策』、『PM2.5』が「重要度が高く満足度が低い」ことは納得できるが、『水環境の保全』と『瀬戸内海の環境保全』が「重要度が高く満足度も高い」ことについては、違和感を感じる。

県民の皆様の受止めが、実態や課題を必ずしも反映したものになっているのか心配だ。

また、『環境学習の充実』については、「満足度が高く重要度が低い」となっている一方で、行政に期待する取組としての声も強く、違和感を感じている。

<p>環境企画課長</p>	<p>結果をどう解析していくかが非常に難しいところかと思う。</p> <p>この「満足度」と「重要度」について、満足度は1番低いものでも5段階評価のうち2.7、重要度は3.2となっており、総じて県民の皆様の満足度や重要度は低いということはない。</p>
<p>環境文化部 参与 <small>(環境管理課長事務取扱)</small></p>	<p>『水環境の保全』が重要度が高く、満足度も高くなっている。</p> <p>河川の環境に関しては、環境基準の達成率が非常に高いということもあり、県民の方が満足されているのだろうと思う。</p> <p>瀬戸内海の関係の重要度が高いことについては、近年、貧栄養化の問題やノリの色落ちということで、漁業関係者の問題意識が高まっていることなども影響し、県民の関心が高まっていると考えている。</p> <p>児島湖や瀬戸内海など、水質の状況に差があるが、県からの情報の出し方を工夫し、より正確に環境の状況を知っていただくことに努めていく必要があると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>30名ほどが在籍する地域の会議において、環境に関する県民等意識調査を実施してみたところ、県が行っている多くの施策について、記載してある項目だけでは詳細が分からないという意見が多く、知らなかったが今回の調査で勉強になったという意見であった。</p> <p>また、PM2.5や稲わらの野焼きに関して質問する意味が分からないという意見もあり、設問によって、評価に違いが出てくると感じた。</p> <p>満足度と重要度の評価についても、地域の方はほとんどの項目で内容が分からないため、とりあえず重要を選択したという声もあり、自分たちに知らされていないことに不満も感じているようだった。</p> <p>この調査を中心に政策を決めていくことに疑問を持たれている方もいた。</p> <p>この地域の会議では、年配の方が多く、若い方の意見は違うかもしれない。この調査の活かし方を検討してもらいたい。</p> <p>また、県の行う多くの施策について、県民全員がある程度知り、関心を持ってもらえるような啓発をぜひやってもらいたい。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>環境に関する県民等意識調査では、御指摘のような御意見が多かった。</p> <p>また、先月、大学生の意見を聞いた際も、県の施策を知らなかったという意見をたくさんいただいた。情報が届いていないことについては、私自身も反省しており、今後、色々な方に情報が伝わるよう、発信方法の工夫が課題であると思っている。</p> <p>今回の調査結果すべてをそのまま次期計画に反映させることは難しいところであり、この結果だけでなく、皆様方専門の方々の御意見を参考にさせていただきながら次期計画を策定していきたい。</p>

<p>環境文化部 参与</p>	<p>PM2.5が何かを知らない方、県のPM2.5の環境基準の達成率が非常に低いことを知らない方が多くおられる。</p>
<p>(環境管理課長事務取扱)</p>	<p>県南部の干拓地周辺に広がっている農地での稲わらの野焼きによって秋にPM2.5が高いということについて、こちらから発信すべき状況になっていると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>調査において、野焼きとPM2.5の関係を知らない方が多いという情報も貴重であり、野焼きの対策が重要であることを県民にしっかり強力に発信していかなければならないと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナの影響として1番考えられることが、学校等での環境学習であり、今後、対面でのやり方は減っていくだろう。数値目標を現状のままにすると、減った要因として新型コロナの影響が混在し、計画の努力が半減する。そうしたことへの対応として、次期計画では、すべてに新型コロナの影響を盛り込むのか、または、想定される新型コロナの影響を記載する章を設け、啓発や参加型の取組については、減少幅と対策を入れるという案が考えられる。前例のない取組のため、やり損うと混乱を生じる。</p> <p>市町村との連携については、情報の共有について課題もある。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>新型コロナへの対応については、本当に難しいところかと思う。</p> <p>現行計画においても取組に影響が出ており、最終年度である今年度の実績がどうなるか心配しているところである。</p> <p>こうした中、できる方法でやっということうことで工夫もしており、例えば、環境学習の取組についても、新しい手法を取り入れてやってみている。</p>
<p>新エネルギー・温暖化対策室長</p>	<p>今年度、通常は開催していた環境学習セミナーについて、新型コロナにより、集まっての開催が困難なため、動画を作成した。</p>
<p>委員</p>	<p>動画は、2週間程度視聴できるようにし、参加エントリーをしていただいってから視聴してもらおうという方法をとった。</p> <p>通常であれば、日時・場所を指定して開催していたため、仕事のある方は参加が困難であったが、今回は、職場・自宅で参加可能であったため、今まで参加できなかった市町村も参加でき、以前より参加者数が増加した。</p> <p>苦肉の策でスタートしたが、こういうやり方も良い面があったと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナで大変な状況ではあるが、この機を捉え、もっと工夫していくべきだと思う。動画配信についても、経験が積み、慣れている人が増えている。現状の危機により社会が変わろうとしているところに県が支援を行うことも考えたら良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1-1について、目標（基本目標・推進目標の項目やその内容）と指</p>

<p>環境企画課長</p>	<p>標の関係性がピンとこない。どういう指標を選択するか、非常に難しいと思うが、うまく説明ができるか（県民にとって分かりやすいか。）。</p> <p>例えば、自然公園の利用者数について、目標数がかかなり大きい、そもそも自然公園はどこを指しているのか。また、一般廃棄物の排出抑制・資源化率については、リサイクルに回っているということで考えて良いか。など。</p> <p>また、本来、現行計画を最終年度までまとめた後に次の計画があると思うので、現状を把握し、次期計画を立ててもらえると良い。</p> <p>それぞれの柱に結びつく指標の中から、象徴的なものを代表的な指標として掲げているため、柱の内容すべてを表すことは難しく、分かりづらい点もあると思う。次期計画では、こういった指標を、県民の方にどう分かりやすく示していくかという視点を持ちたい。</p> <p>最終年度である今年度の結果を見て次期計画を策定できれば一番良いが、事務作業のスケジュールとしては、その前に作らなければならない。最新の進捗状況を確認しながら、それも踏まえ、中身に盛り込んでいきたいと思っている。</p>
<p>循環型社会推進課長</p>	<p>資料1-1の2ページ、一般廃棄物、産業廃棄物の排出抑制・資源化率の中身について、まずは、廃棄物を減らしていかないといけないという命題がある。</p> <p>項目名では分かりづらいが、廃棄物が排出されなくなることが大事であり、また、排出されたとしてもリサイクルされ、資源として循環することも重要なことである。</p> <p>これら2つの状況が、この項目1つでわかるということで、過去の廃棄物の排出量に対し、今の排出量がいくらかということを表示している。</p> <p>96%という数値は、基準となる年の排出量に対し、リサイクルや排出抑制に回った割合ということである。</p>
<p>委員</p>	<p>排出量の抑制は、例えば、材料の量を減らして同じものを作るということを考えるが、こういったものは数字として出てこない。廃棄物がどれだけ再資源化に回っているかという数字にすれば分かる。</p>
<p>循環型社会推進課長</p>	<p>再資源化に回るのも大事であるが、全体として廃棄物の量が減っていくことも大切だと考えている。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>御指摘のとおり、一般には分かりづらい数値ではあるかもしれない。</p> <p>2つの要素を重ね合わせた指標として、工夫しているつもりであるが、一般的に見て、分かりやすく示すというところも今後の課題かと思う。</p>
<p>自然環境課長</p>	<p>公園は、街の公園や森林公園など、様々な種類があり、資料だけを見ると</p>

	<p>自然公園という表現だけでは分かりづらいところがあると思う。</p> <p>エコビジョン2020の用語集に、自然公園の定義を記載しており、国立公園、国定公園、県立自然公園のことである。県内では、国立公園が2つ、国定公園が1つ、県立自然公園が7つある。</p> <p>自然公園の利用者数は、国立公園、国定公園、県立自然公園の利用者数ということになる。</p> <p>数値（平成30年度実績）については、1,100万人と前年度より減少しているが、これは、7月豪雨災害があり、公園の施設が一部通行止めになったことや、利用機運への影響があり、公園利用者が減少したと考えている。</p>
<p>循環型社会推進課長</p>	<p>数字の出し方については、平成17年度の排出量に対し、現在の埋立処分量を出している。</p> <p>これにより、リサイクルに回った量、平成17年度からの廃棄物の減少量というのが分かる。</p>
<p>委員</p>	<p>エネルギー回収という言い方をするが、燃やして電気を作るということも資源化に入るか。</p>
<p>循環型社会推進課長</p>	<p>(廃棄物を燃やして電気を作ることは)我が国では資源化に含まれている。</p>
<p>委員</p>	<p>(資源化は)埋立しなかった量のことか。</p>
<p>循環型社会推進課長</p>	<p>そうである。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>次期計画は、県民に分かりやすく親しみやすいものにするという点もポイントとしており、指標そのものの検討や、指標によっては、どういうことを表しているかという補足も必要かと思っている。細部を作り上げていく段階で、工夫を加えてまいりたい。</p> <p>委員</p> <p>次期計画骨子案の全体的な考え方だが、前回の政策部会の際は、策定方針の中で、SDGs、国の第5次環境基本計画、地域レベルでの持続可能なイメージとしての地域循環共生圏が示されていたが、今回の資料では必ずしもそうではないような気がする。</p> <p>SDGsについては、世界共通のフレームワークとして、環境基本計画を考える上でも、目標や課題が整理されるべきであるが、明示的に述べられていない。</p> <p>また、資料2-1（骨子案）の第3章、将来の姿の具体的なイメージとして、『環境保全と経済発展が両立して、一人ひとりの意識や関わりのもと、</p>

<p>環境企画課長</p>	<p>誰もがより良い環境で暮らす社会』が、地域循環共生圏を達成するための基本的な社会の在り方だろうと思うが、このあたりのことが、十分に議論され、次期計画の全体的な考え方として考えられているのか、また、国の第5次環境基本計画の枠組みと県の次期計画の擦り合わせがちゃんとしているのか気になった。</p> <p>お話の点は、ベースになる考え方や情報として、大いに踏まえていきたいと思っている。</p> <p>国の環境基本計画については、策定された平成30年4月以降の大きな変化も捉える必要もある。</p> <p>また、SDGsについても、共通の認識のベースとして踏まえるものになると思うが、県の環境基本計画の中身での位置付けや、どのように明記していくのかは、今後、精査していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>これまで持続可能な開発、持続可能な社会という考え方が、それぞれの国や主体によってばらばらであった。SDGsは、世界・国内・県内・市町村を含めた共通の枠組みとして示されたものであり、ぜひ採り入れてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の政策部会では、真庭の取組が例として挙げられていた。県北では、後継者がおらず、農業従事者が減っていることなど、岡山特有の課題があると思う。こういうことにある程度踏み込んだものを期待しているが、骨子案はさらっとしすぎている。次回の政策部会では、具体的に出てきてほしいと思う。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>前回の政策部会で、岡山の特異性・独自性を示せばという御意見があったと承知しており、そうした点も含め、事務局内で議論しているところであり、今後の肉付けの中で、このあたりの特徴をどう出していけるか考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>現在の計画期間が12年であり、次期計画が20年であるが、期間を延ばしたのはなぜか。</p> <p>総務省が自治体戦略2040の中で、国と自治体との関係について、2040年を基準とした構想を発表しており、これに関連して、政府では、Society 5.0をベースにし、AI等を利活用したスマートシティを推進している。</p> <p>これを環境行政の問題に関連して考えると、どういうことが考えられるか。また、20年先は、相当大きな変化が生じると思うが、岡山県としての環境問題をどのように考えているか。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>20年が良いかどうかについては、様々な議論があろうかと思うが、環境</p>

委員	<p>は、少し長期を見ないとその成果が測れず、明るい未来が描ける期間を設定したいと思っている。</p> <p>今後、新しい生活様式も背景に、デジタル化の加速化など、新たな動きも出てくると思うので、環境の取組にどう取り込んでいくかが課題だと思っている。</p> <p>様々ある国の長期的な展望をすべて網羅することは難しいが、大きな動きやうねりを踏まえて、長期展望を立てたいと思っている。</p> <p>計画の期間が一番大事だと思う。新型コロナへの対応のため、新たな手法を採り入れることも大事であり、特に4年間の短期的な取組が重要になると思う。長期的な目標の達成は、短期的な取組によって変わると思うが、このあたりの修正は、2024年に向けて考えていけば良いと思う。</p> <p>第2章については、非常に難しいところである。</p> <p>新型コロナについて、県内の状況はある程度分かるかもしれないが、世界の状況や日本の状況もどうなるか分からないこの時期に計画を立てること自体が冒険だと思う。来週にはまた違ってくるかもしれない。国内外、県内外の情勢の把握が非常に難しいと思う。</p> <p>現在、自身の町内会での収集場所において、一般ごみの増加が著しい。在宅勤務等もあり、収集容量を超えて、収集場所からごみが溢れているような状況である。市町村との連携の中で、これを解決するようなことも考えてほしい。</p> <p>ごみの収集の在り方や道路の雑草など、目に見えるところで評価されやすいため、こういったことに目を向けてやったら良いと思う。</p> <p>その他、政策部会以外の部会に関する意見（必要に応じ、他の部会からも次期計画についての意見を聞くこと、他の部会の会議時間を十分とること）が出された。</p>
----	---